



ベスト シーニックバイウエイズ プロジェクト2020 応募プロジェクト一覧



ベストプロ2019 最優秀賞

函館・大沼・噴火湾ルート

～「はこだて花かいどう」での一年を通じた継続的な取り組み～

函館新道「花いっぱい活動」
及び「シーニックdeナイト」

シーニックバイウェイ北海道推進協議会

活動名称

～景観阻害物を撤去して再利用！～
景観向上に向けた雑木伐採と資源のリユースプロジェクト

エントリー部門

美しい景観づくり

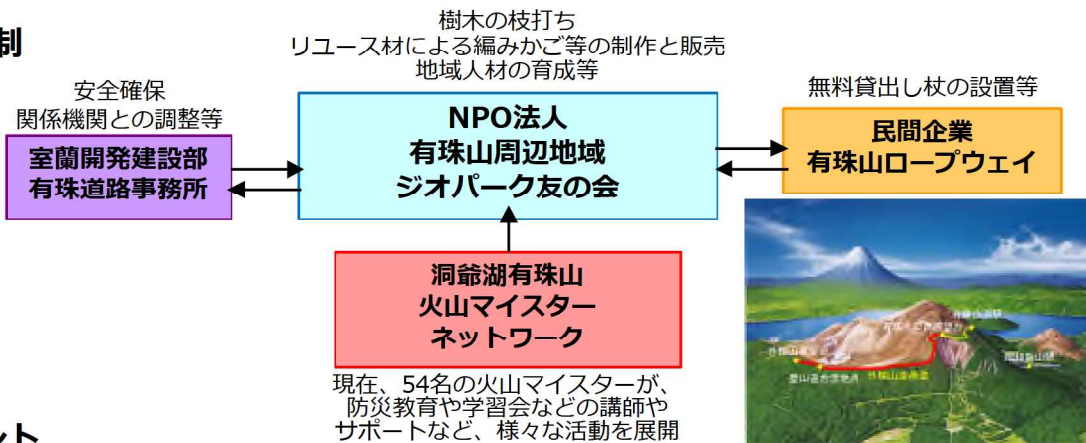
ルート名称

支笏洞爺ニセコルート

①活動概要（目的・目標、具体的な取り組み等）

- 活動の目的・目標：
シーニックバイウェイによる沿道の景観清掃活動の中で、目に付いた道路の景観を阻害する胡桃の木等を撤去する活動を兼ね、リユース材の販売や遊歩道に杖や案内サイン等の設置。
- 活動内容：①案内標識等の視認性を妨げる**樹木の枝打ち等**による**道路景観の向上**
②枝打ちした胡桃の枝等を杖に加工：登山道での**無料貸出し杖設置**
③ブドウツル等を活用した**加工品の制作・販売**(地域バザール等)
④会員を対象とした籠編み講習会等を通じた**地域の人材育成**
- 活動期間：平成27年度～令和2年度 **※継続展開中**
・実施場所：洞爺湖周辺の道路沿道（国道・道道等）
※道路脇などに自生し看板の眺望を妨げているクルミ・ヤマブドウ等の枝について、道路管理者や各種関係機関との事前・事後の調整をした上で実施

②活動の体制



③PRポイント

【総意工夫した点や苦労した点】

- ・地域資源（人・もの等）の**リユース・リサイクル**および**高付加価値化**
- ・加工品の**売上げ**は、エリア内の**地域活動に還元**するなど、**活動の自立に繋がっている**
- ・女性メンバー等、幅広く多くの方々に**地域活動に参加してもらった気運が醸成**されている
- ・道路沿道での活動を伴うため、**道路管理者・地域・民間の密な連携体制の構築**
- ・樹皮を活用できる枝打ち時期が短期間に限られているため、伐採期間に限りがある

【活動による効果】

- ・有珠山を訪れる国内外の観光客に対する**サービス提供に対する高い評価**【**外向き**の効果】
- ・地域資源の利活用による**資源や活動資金の循環**および**地域人材の活性化**【**内向き**の効果】

STEP1 眺望確保に向けた雑木伐採



STEP2 伐採木のリユース（籠みかごの販売や杖の提供）



(↑) ジオパーク友の会手工芸部会
によるリユース作品の販売
新聞掲載記事 (→)

活動名称 オロロンライン・サイクリスト応援プロジェクト

エントリー部門 魅力ある観光空間づくり賞

ルート名称 萌える天北オロロンルート

①活動概要（目的・目標、具体的な取り組み等）

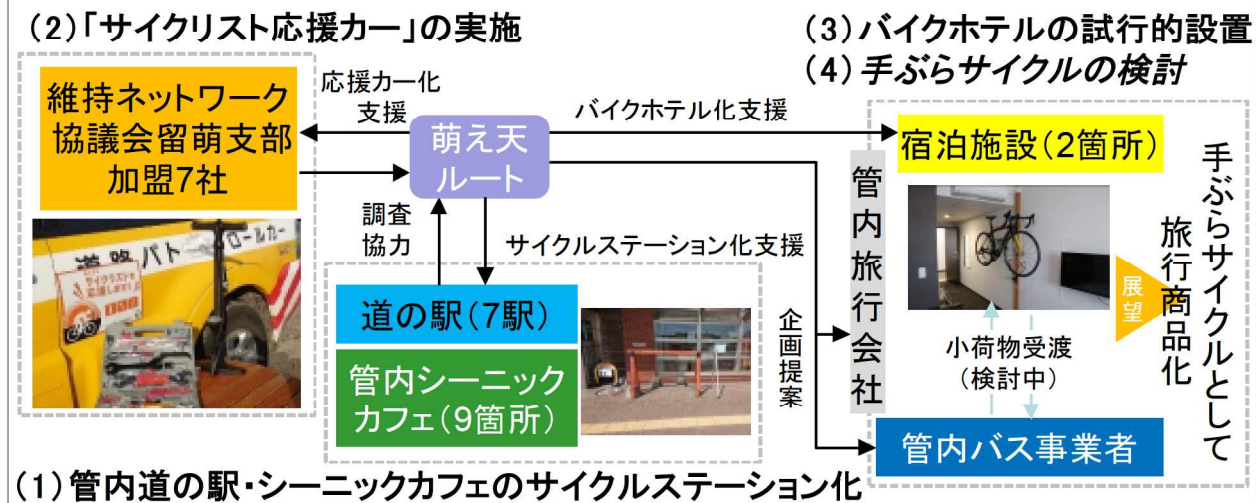
●活動の目的・目標：

- ・「オロロンライン」はサイクリストにとっても全国的知名度のある区間だが、各休憩施設が点在している上級者向け区間。
- ・ビギナー層やライト層も視野に、管内の事業者・団体と連携しサイクリストの受入環境整備を展開するプロジェクト。
- ・「オロロンラインに訪れたサイクリストを応援する」ことを目的とし、来訪者の増加・観光消費の促進・地域振興を目標。

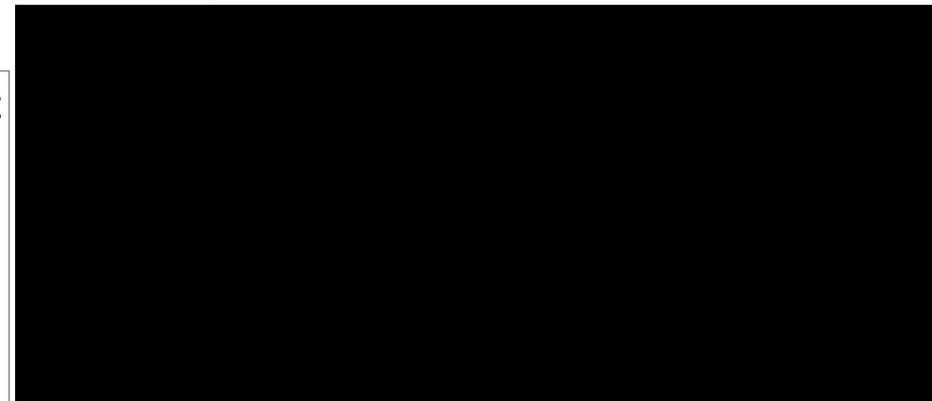
- 活動内容：(1)管内道の駅・シーニックカフェのサイクルステーション化、(2)「サイクリスト応援カー」の実施、(3)バイクホテルの試行的設置、(4)手ぶらサイクルの検討 ※斜体項目は企画検討段階

- 活動期間：令和元年度～令和2年度 ※継続実施中

②活動の体制



本プロジェクトで用いるロゴ
(日本海の夕陽と風車をモチーフ)



サイクルラック製作ワークショップ（留萌北部・中部・南部で3回実施）



サイクルラックにはロゴを焼きゴテで刻印し、皆で完成を喜んだ。

③PRポイント

【総意工夫した点や苦労した点】

- (1)管内道の駅・シーニックカフェのサイクルステーション化
 - ・サイクルラックの設置先の関係者とワークショップ形式でラックを製作することで、サイクリストの受入環境整備を共に作っていく関係性を体験を通して構築。
- (2)「サイクリスト応援カー」の実施
 - ・区間を頻繁に往来する道路パトロールカーの強みを活かすことで、万が一のトラブルに対応できる「動くサイクルステーション」を管内一円で実現
 - ・社会貢献活動の一環として協力いただくために一社ずつ丁寧に説明。

【活動による効果】

- 受入環境整備や地域モチベーションの向上効果
- ・サイクリストの受入環境を管内一円で楽しみながら底上げ。
- ・既存の関係団体との協力関係が強化された。
- ・これまでサイクリストに関心のなかった事業者や団体においても、サイクリストへの理解度が体感を通して高まった。
- 他ルートへの波及効果
- ・釧路(R2年度～)や十勝(R3年度予定)でも応援カー稼働

～伊能忠敬日本図測量開始場所の史実発見と地域資源活用の取組～

「殿様街道探訪ウォーク」における地域の歴史資源研究活動

エントリー部門

活力ある地域づくり

活動名称

ルート名称

どうなん・追分シーニックバイウェイルート

①活動概要（目的・目標、具体的な取り組み等）

●活動の目的・目標：江戸時代松前藩の殿様が通った通称「殿様街道」を実際に歩いた歴史的偉人に関する史実を学びながら古道散策を楽しみ歴史を知ること、改めて「道」について“体験と学び”から考える取組である。また、古道散策では地域の季節の植物や自然に触れ、北海道のみならず日本の歴史や文化に影響を与えた史実研究事象等学び、それらを地域資源、観光資源として磨き、活用することも目的とする。

●活動内容：「殿様街道探訪ウォーク」は年2回春5月・秋10月に開催。松前藩時代の古道を散策しながら砲台や茶屋跡等の休憩ポイントで毎回設定される歴史テーマを学び、散策後は地産の干軒十割蕎麦を食し、国の重要無形民俗文化財の松前神楽を観賞する取組。現在までテーマが「伊能忠敬の道」は8回行われ、研究活動を通して大日本地図測量が福島町吉岡から始まった史実を裏付ける日記や書状を発見。このことが広く地域の歴史資源として認知されるよう平成30年4月伊能忠敬像を建立、伊能忠敬北海道測量開始記念公園整備、令和2年10月近隣の小学生を対象に歴史勉強会（2回）開催、「ふくしま歴史物語」を3年かけて編纂し令和3年2月完成等の活動に繋がった。

●活動期間：平成20年度～令和2年度（継続中）

②活動の体制

殿様街道探訪ウォーク主催・研究学習の場



▲「殿様街道探訪ウォーク」学びの取組



「殿様街道探訪ウォーク」参加応募チラシに学習歴史テーマ 伊能忠敬の道



▲観光空間となっている伊能忠敬北海道測量開始記念公園と伊能忠敬銅像

③PRポイント

【総意工夫した点や苦労した点】

- ・ 古道を熟知している人材と事前にルートの安全性の点検、異物除去当日はハンターが同行する等毎回準備の連携体制が図られている。
- ・ 毎回、先進的な視点で歴史テーマ研究を持続的に行ってきた。
- ・ 「殿様街道探訪ウォーク」はルート設立当初から長期間継続して行っており、リピーターが多く、28回の開催実績を積重ねてきた。

【活動による効果】

- ・ 大日本地図作成に関わる伊能忠敬記念館の国宝は2300点を超える中地域の歴史資源研究活動から地図測量が福島町吉岡から始まった史実の裏付けを大発見。地域資源・観光資源として認知向上。
- ・ 探訪ウォーク参加者の意見をきっかけに史実を実証化する銅像建立公園整備をし令和2年ビューポイントパーキング登録。一般国道228号沿線の観光空間として地域交流人口を高めている。
- ・ 地域歴史書「ふくしま歴史物語」取り纏め等子供や地域に歴史資源が浸透・継承する活動に繋がっている。



▲ふくしま歴史物語表紙と測量が福島町吉岡から始まったことを記載している日記と書状 (P6掲載)



▲伊能忠敬銅像の前で松前小学校の生徒に歴史勉強会を開催